

統計スポット情報

No. 166

22. 3. 4

福井県総合政策部政策統計課

本県の中学校、高等学校卒業後の進学、就職の状況

3月は卒業のシーズンですね。

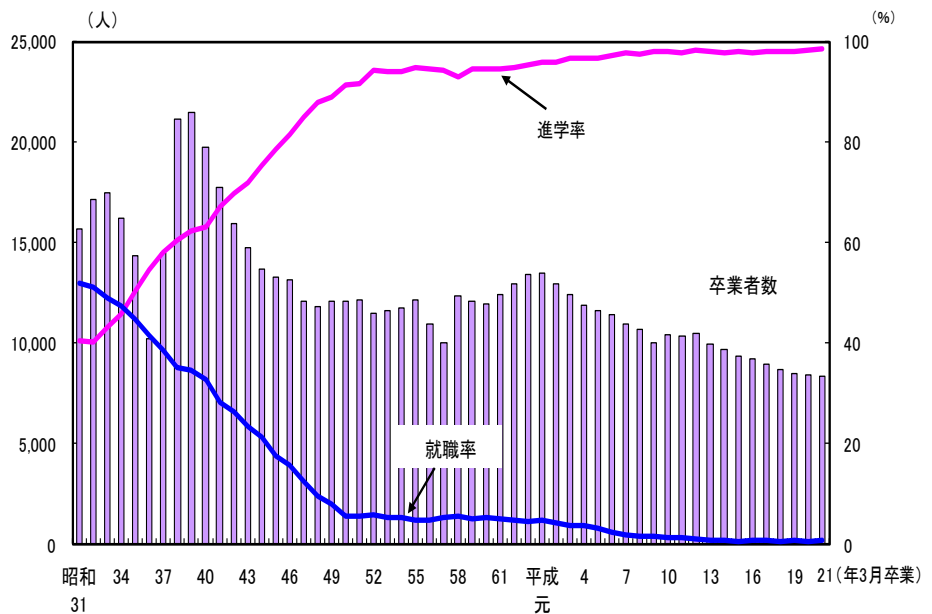
そこで、今回は、本県の中学校、高等学校卒業後の進学、就職の状況について、見てみましょう。

(出典はすべて「学校基本調査」および「進路実態調査」)

中学校卒業後の進学率・就職率の推移

中学校卒業後の進路

昭和31年3月卒業者では就職率(52.0%)が進学率(40.5%)より高くなっていましたが、昭和35年3月卒業者で逆転し、昭和50年頃まで、急激に進学率は増加し、就職率は減少しています。その後は緩やかに変化しており、平成21年3月卒業者の進学率は98.7%、就職率は0.6%となっています。



高等学校卒業後の進路

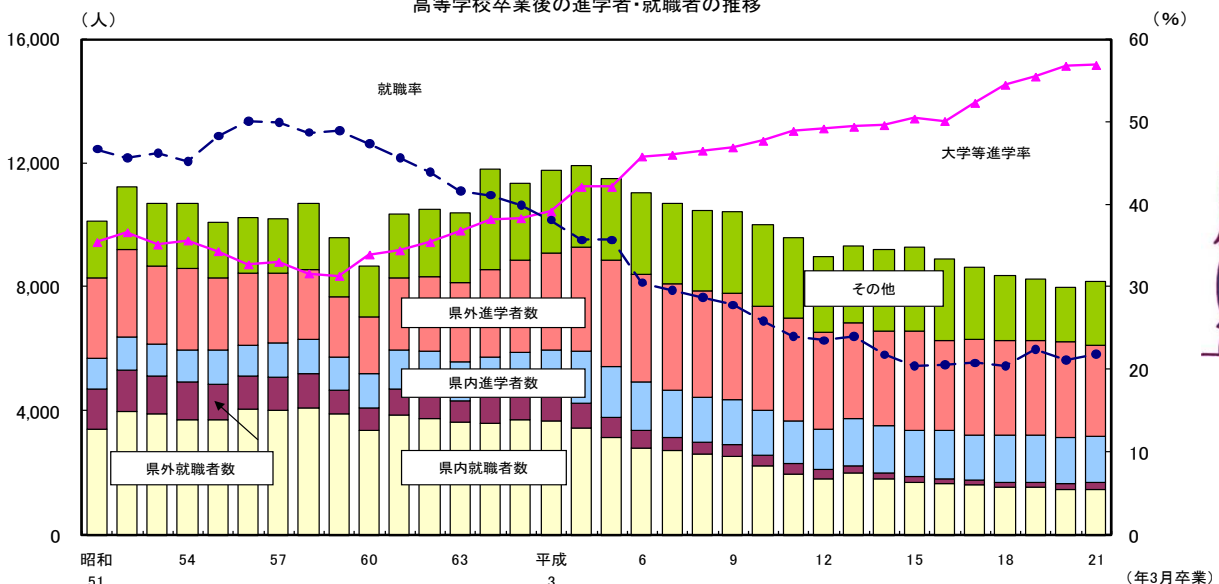
本県の高等学校卒業者の大学等(注1)進学率(現役)は、平成3年3月卒業者の時に就職率を上回り、平成21年3月卒業者の進学率においては、過去最高の56.9%(全国平均53.9%)となり、全国で第11位となりました。

高等学校卒業者の就職率については、年々減少してきましたが、ここ数年は横ばい傾向にあり、平成21年3月卒業者の就職率は21.9%(全国平均18.2%)となっています。

それでは、次に大学等進学先、就職先について詳しく見てみましょう。

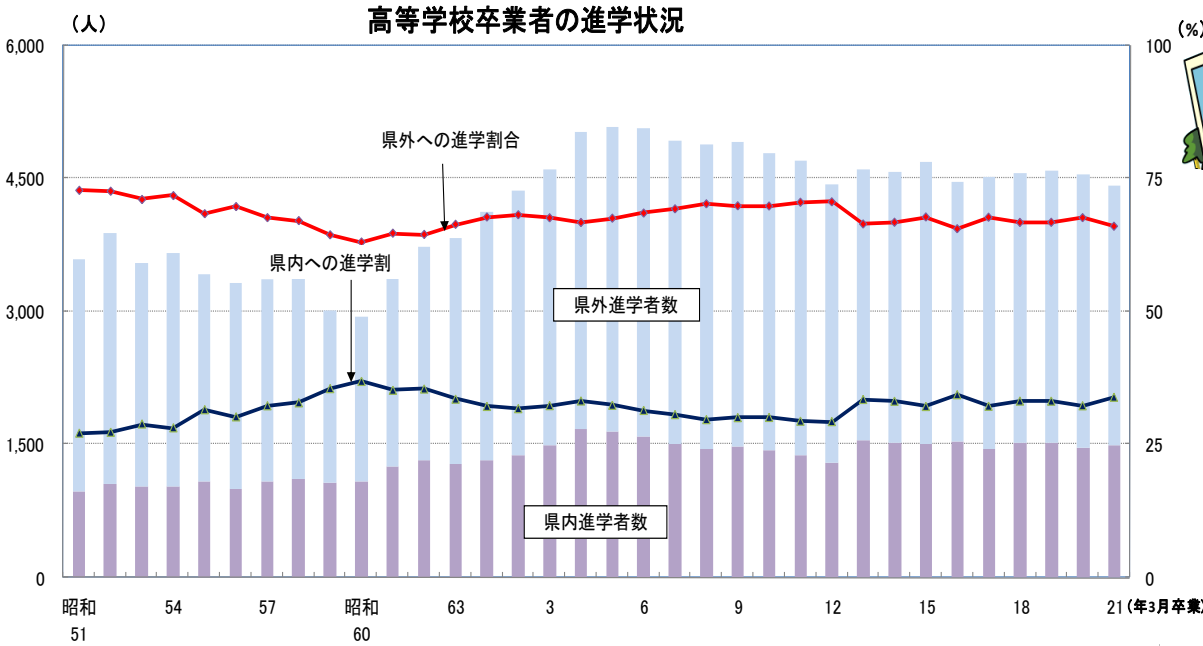


高等学校卒業後の進学者・就職者の推移



大学等進学先の推移

高等学校卒業者の大学等進学者（現役）の県内および県外への進学割合の推移について見てみると、進路実態調査が開始された昭和 51 年 3 月卒業者からほぼ横ばい状態で推移しており、平成 21 年 3 月卒業者の県外進学者の割合は 66.1%となっています。



それでは、県外への進学者について、本県からどこの都道府県の大学等へ進学したのか、見てみましょう。

平成 21 年 3 月卒業者の進学先は右の表のとおりとなっています。

県外大学等進学先

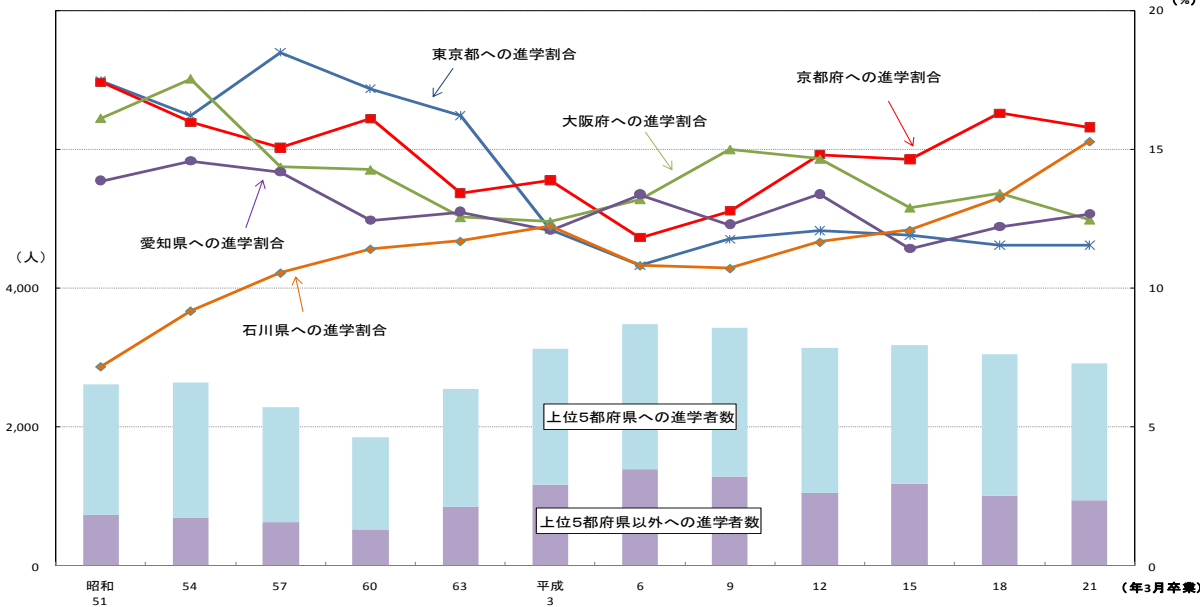
順位	進学先都道府県	進学者数
1	京都府	461人
2	石川県	446人
3	愛知県	370人
4	大阪府	364人
5	東京都	337人

(平成21年3月卒業者)

高等学校卒業者の進学先都道府県の推移について、進学者数が多い 5 都府県（京都府、石川県、愛知県、大阪府、東京都）への進学割合を見てみると、昭和 50 年～60 年代は東京都や大阪府への進学割合が高くなっていましたが、近年は石川県への進学割合が高くなっていきます。また、京都府への進学割合は昭和 50 年代から比較的高く、平成 21 年度の進路実態調査でも第 1 位になっています。



高等学校卒業者の上位5都府県等への進学割合

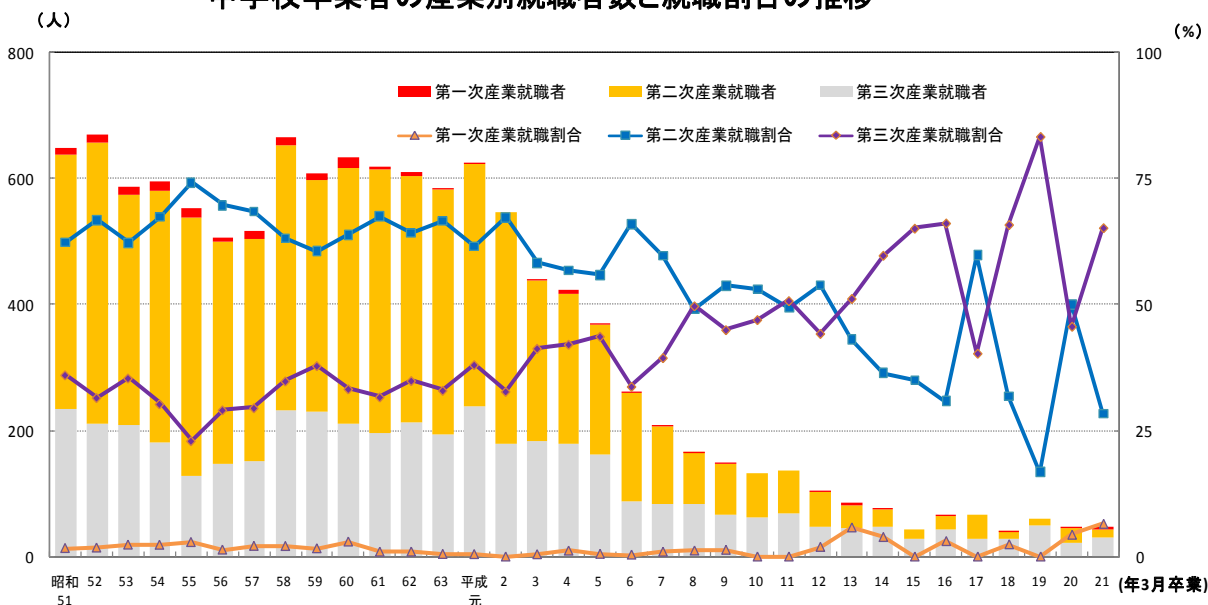


就職先の推移

中学校卒業者の産業別就職割合を見てみると、昭和51年3月卒業者では第二次産業への就職割合(62.3%)が第三次産業(36.0%)に比べてかなり高くなっていますが、平成11年3月卒業者では第二次産業と第三次産業への就職割合が逆転し、それ以降はおおむね第三次産業への就職割合が高く推移しています。平成21年3月卒業者では、第二次産業への就職割合は28.3%、第三次産業は65.0%となっています。



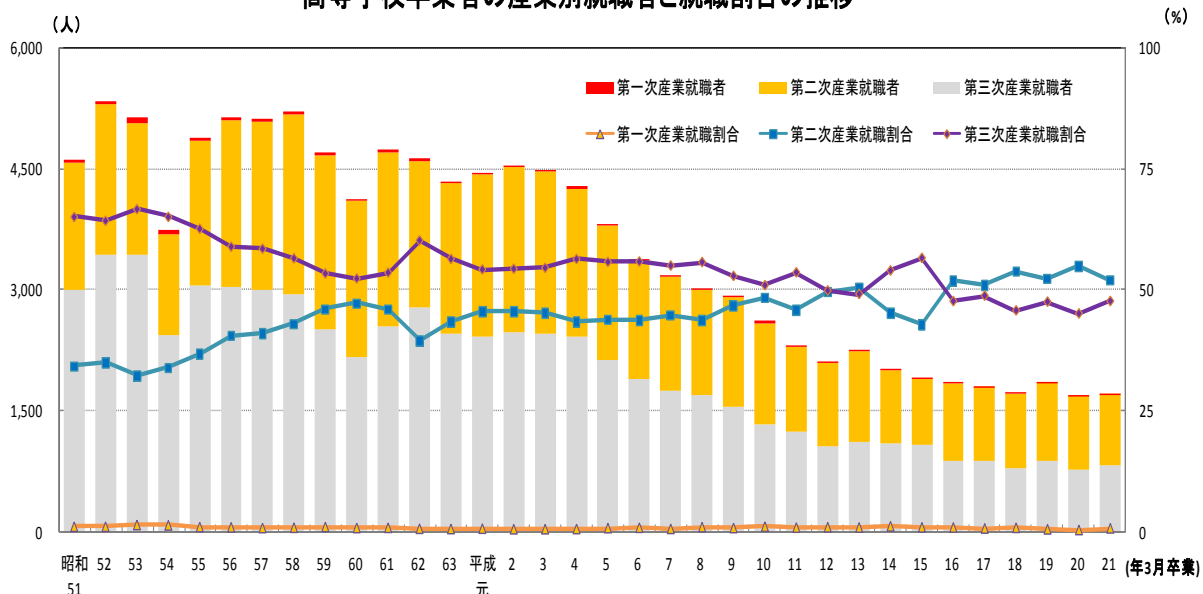
中学校卒業者の産業別就職者数と就職割合の推移



高等学校卒業者の産業別就職割合(注2)を見てみると、昭和51年3月卒業者では中学校卒業者とは逆に、第三次産業への就職割合(65.0%)が第二次産業(34.1%)に比べて高くなっていますが、平成10年3月卒業者からは、第二次産業と第三次産業への就職割合がほぼ同率で推移しています。平成21年3月卒業者では、第二次産業への就職割合は51.8%、第三次産業は47.6%となっています。



高等学校卒業者の産業別就職者と就職割合の推移



(注1) 大学等とは、大学、短期大学(通信教育部、別科を含む)および高等学校専攻科をいう。

(注2) 高等学校卒業者の産業別就職者、就職割合については、日本産業分類に基づいて分類した。

この資料内容に関するお問い合わせは、政策統計課統計分析グループ(電話 0776-20-0271)まで御連絡ください。

今年 **10月1日** に、「**平成22年国勢調査**」を実施します。

我が国に住んでいるすべての人を対象とする 国の最も基本的な統計調査です。
どうぞよろしくお願いいたします。

